

# 平成 27 年度 事業報告書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人 前川財団

# 目 次

I. 事業	1
1. 概要	1
2. 事業の状況	1
(1) 平成 27 年度助成事業（定款第 4 条 1 項 1 号事業）	
(2) 平成 27 年度研修会事業（定款第 4 条 1 項 2 号事業）	
3. 体制の整備	4
II. 庶務の概要	5
(1) 理事及び監事に関わる事項	
(2) 評議員に関する事項	
(3) 選考委員に関する事項	
(4) 職員に関する事項	
(5) 諸規程に関する事項	
(6) 会議等に関する事項	
<理事会>	6
① 平成 27 年度第 1 回理事会	
② 平成 27 年度第 2 回理事会	
③ 平成 27 年度第 3 回理事会	
④ 平成 27 年度第 4 回理事会	
⑤ 平成 27 年度第 5 回理事会	
<評議員会>	7
① 平成 27 年度第 1 回評議員会	
② 平成 27 年度第 2 回評議員会	
③ 平成 27 年度第 3 回評議員会	
(7) その他重要事項	7
① 許可、認可、承認、証明に関する事項	
② 契約に関する事項	
③ 寄付金に関する事項	
④ 行政庁からの連絡事項等	
III. 業務の適正さを確保するための体制の整備についての決議の内容の概要	7
IV. 附属明細書	8

# I. 事業

## 1. 概要

公益財団法人前川財団（英文名 Mayekawa Foundation）は、家庭・地域社会の教育、とりわけ日本の伝統的・文化的な家庭・地域社会の教育の研究及び実践を支援し、また、その精神を現代の子育て・教育環境に反映させていく方策の探求及び実践を通じて、失われつつある日本型共同体の再建を図り、そこで育まれた優秀な人材を世の中に輩出していくことをもって永続的な日本の発展に寄与し続けることを目的とし、平成 26 年 4 月 1 日に設立され、平成 27 年 1 月 16 日付をもって内閣府より公益財団法人への移行認定を受けた。

平成 27 年度においては、理念、事業は一般財団法人より継承するものとしてあるが、公益財団法人としての事業初年度であり、今後の継続的、発展的な活動の基礎と位置づけて、事務局の増員を行い、内部規程の改定を含めて事業、運営の充実を図った。

## 2. 事業の状況

### (1) 平成 27 年度助成事業（定款第 4 条 1 項 1 号事業）

#### <募集および応募>

平成 27 年 4 月 1 日より財団ホームページに応募要項を公示し、併せて、財団事務局より教育関係の各方面、たとえば児童・幼児教育学科のある大学等にダイレクトメールを送付し応募を促進した。平成 27 年 7 月 1 日～31 日の申請期間で、ホームページを介して応募受付を行い、26 年度を上回る応募を得た。

上記方針による募集の結果、「子育て、幼児教育」の共通点の下で、応募分野としては、医学、教育史学、心理、言語、哲学、メディア、教育学、地域再生、江戸学、教育システム等幅広く助成を求められ、「研究」と「実践」では、「研究」が多いという結果であった。

#### <選考および採択>

7 月 31 日締切時点で応募総数 36 件、応募総額 2,436 万円の応募があり、理事会で選定承認された別項名簿の選考委員により、別途明示の選考基準に則り、研究内容、助成対象費目等の詳細が記載されている助成申請書、参考資料の閲覧をもって、定められた期間内で第一次審査を行った後、8 月 18 日の選考委員会で第二次審査を実施した。選考委員合議の上、助成採択 24 件、採択総額 1,341 万円を決定し、8 月 20 日の理事会において承認された。

#### <助成採択結果>

助成採択者一覧表は次頁の通りであり、またホームページ上に公開し閲覧に供している。

#### <通知、助成金支払い>

事務局より採択通知を 8 月 21 日に行い、助成金は、9 月 7 日：1,210 万円、11 日：131 万円を助成金の使途要領とともに送付。振込通知をもって受領確認とし手続きを完了した。

#### <前年度助成の研究成果評価>

前年度の助成研究の成果評価は、報告書および添付書類、費目の合致等をあらかじめ調査し、妥当性を評価した書類を事務局で集約し、同成果報告書および添付資料の閲覧により、各選考委員が研究達成度を評価した。さらに、各助成案件に対する継続の推奨と財団の助成方針の明確化に活用した。

平成 27 年度教育振興事業の成果評価においては、内容によって研修会事業での登壇・発表、経年研究継続の奨励、若手研究者の継続、ステップアップ等のきめ細かな助成のベースとする。なお次年度は現地調査およびヒアリングを実施し、評価のフィードバックを強化する方針を定めた。

※平成 26 年度助成金の未費消 2 件の申告（¥319,979、¥449,819、合計¥769,798）について、未使用金の返還を求める決議（平成 27 年度第 4 回理事会：8 月 20 日付開催）による返還を受け、平成 27 年度のその他の雑収入に計上した。

	所属機関名/役職 氏名	研究課題名	助成額
1	京都大学 教授：明和 政子	身体接触をとまなう遊びが乳児期の脳および行動の発達に与える影響	¥850,000
2	東北女子大学 助教：森川 夏乃	母親からの賞賛が子どもの動機づけに及ぼす影響・非言語コミュニケーションに着目して	¥450,000
3	大阪城南女子短期大学 専任講師：芝田 圭一郎	幼児の「遊びメディア」(乗り物・TV ヒーロー)分析を通じた家庭内男性の文化伝承の歴史的変遷	¥550,000
4	お茶の水女子大学大学院 岐部 智恵子	父親の抑うつと未就学期の子どもの発達：育児参加を軸とした日英比較から	¥550,000
5	大阪総合保育大学 専任講師：弘田 陽介	大阪・船場の商人文化に探る家庭の子育て・教育力	¥550,000
6	愛知淑徳大学 講師：佐藤 朝美	ファミリー・ポートフォリオ活用による家族の遊びの提案：ファミリー双六アプリの開発	¥700,000
7	早稲田大学 教授：池田 雅之	家庭教育の再生と教育ボランティアの可能性に関する実践的研究	¥650,000
8	人間文化研究機構 特任研究員：宮崎 康子	児童文学にみられる子どもの死生観・道徳観・大正期における児童雑誌『赤い鳥』を中心に	¥460,000
9	福山市立大学 准教授：吉長 真子	近代日本における産育の変容と「母性の教化」	¥500,000
10	新渡戸文化短期大学 准教授：尾崎 博美	「家庭-地域-学校」の連携が生み出す関係的な「知の様式」の研究-「公-私」をつなぐ「感覚とことば」の学びの分析-	¥650,000
11	京都学園大学 准教授：鍛冶 宏介	江戸時代手習教育における七夕行事の研究	¥500,000
12	中央大学 教授：新原 道信	“コミュニティを基盤とする参与的行為調査”による“臨場・臨床の智”の伝達に関する実証的研究	¥600,000
13	名寄市立大学 専任講師：松浦 智和	統合失調症患者の子育て、家庭教育の課題に関する研究	¥500,000
14	武庫川女子大学 客員教授：山崎 洋子	現代社会における家庭教育とインフォーマル教育に関する研究	¥600,000
15	福山市立大学 准教授：劉 郷英	乳幼児期の母語発達を促す教育プログラム開発に関する基礎研究	¥600,000
16	立正大学学園 准教授：石山 秀和	近世期のメディアにみる「教育」の諸相	¥500,000
17	武庫川女子大学短期大学部 講師：小尾 麻希子	農繁期託児所と子育て・家庭教育との関係をめぐる歴史的考察	¥500,000
18	大阪樟蔭女子大学 教授/村井 尚子	保護者の気持ちに寄り添える保育者、教育者の育成に関する研究—授業における現象学的探究を通して—	¥500,000
19	十文字学園女子大学 講師：亀崎 美沙子	乳幼児期の家庭の養育力向上のための支援におけるジレンマに関する研究	¥500,000
20	大正大学 教授：青木 聡	離婚時の親教育プログラムの開発に関する基礎研究(2)～同居親に対するインタビュー調査から	¥500,000
21	聖徳大学 教授：梶 瑞希子	祖父母世代の子育て支援日独意識調査 - 異世代間交流から協働へ -	¥700,000
22	鶴川女子短期大学 講師：竹田 恵	家庭の教育機能の変化とモンテッソーリ教育再導入	¥500,000
23	木更津工業高等専門学校 講師：大貫 俊彦	「家庭・教室・世界をつなぐ教育—松美佐雄『教室童話学』の初等教育における実践と普及に関する研究(継続)	¥400,000
24	JWUほうめいこどもクラブ 西畑 利栄子	日本女子大学における「放課後サポート」について、実施にむけての調査・研究	¥600,000

## (2) 平成 27 年度研修会事業（定款第 4 条 1 項 2 号事業）

子育て、幼児教育に関心のある全ての公衆を対象として、家庭・地域社会の教育とりわけ日本の伝統的・文化的な家庭・地域社会の教育を現代の子育て・教育環境に反映させていくことを目的に本事業を行った。

平成 27 年度においては、6 月、1 月に 2 回開催し、いずれも「未来教育シンポジウム」として、普及・啓発目的から基調講演とパネルディスカッションを組み合わせたシンポジウム形式にて開催した。

### <平成 27 年度第一回「これからの子育て 霊長類学と江戸学に学ぶ」>

あらかじめ宣伝用リーフレットを作成し関係各方面に配布するとともに、財団ホームページ上に公開し、広く参加を呼びかけた（参加費無料）。

<主催> 公益財団法人前川財団

<後援> 早稲田大学、早稲田大学国際言語文化研究所

<開催日時> 平成 27 年 6 月 14 日（日） 東京都江戸東京博物館 大ホール

<参加者> 183 名

### <講演とプログラム>

◎ 基調講演…松沢哲郎氏（京都大学霊長類研究所教授）

チンパンジーの子育てからみた人間の子育て「教えない教育、見習う学習」とそこからの一歩

◎ パネルディスカッション（コーディネーター：辻本雅史氏）

- ・子育てをめぐる協働の諸相-江戸時代の子育て：太田素子氏（和光大学現代人間学部教授）
- ・子育て文化を支える身体の知：弘田陽介氏（大阪総合保育大学専任講師）
- ・誰がこどもを育てるのか-江戸時代から考える：辻本雅史氏（国立台湾大学教授）

### <当日アンケート結果>

#### 第一回シンポジウムアンケート集計

Q1 シンポジウムの感想		Q2 興味ある講演		Q3 参加者の年代		Q4 シンポジウムの認知	
大変良い	53%	霊長類学	22%	50 代	32%	知人・友人	69%
良い	43%	江戸学	11%	40 代	25%	チラシ案内	15%
普通	2%	地域教育	15%	60 代以上	23%	前川財団 HP	11%
あまり良くない	0%	家庭教育	21%	20 代	11%	その他	5%
良くない	0%	子育て実践	18%	30 代	7%	幼稚園	0%
		その他	14%	10 代	1%	公共施設	0%

Q2 興味ある講演（その他）
基調講演
講師の具体談がある
子育ての歴史
新しい視点の考え方
諸分野からの視点がある
霊長類視点からの子育て
内容が分かり易い
聴衆参加型のもの

Q5 今後の講演企画への意見
子育ての知恵、母親や保育士の話、具体的な事例
親の役割、今後大人達が成すべきこと
日本人リーダーの幼少期談
共同体の再生、共同体の子育て
子ども向け、子ども参加型のシンポジウム
個別の学問ではなくその融合
子どもの貧困と連鎖の解決策

※アンケート結果により、次回の方向性とより実践的なテーマによる講演者の招聘を企画した。

## ＜平成 27 年度第二回「からだを育てる 感覚を磨く」＞

あらかじめ宣伝用リーフレットを作成し、関係各方面に配布するとともに、財団ホームページ上に公開し、広く参加を呼びかけた（参加費無料）。

＜主催＞ 公益財団法人前川財団

＜後援＞ 早稲田大学、早稲田大学国際言語文化研究所、総合幼児教育研究会

＜開催日時＞ 平成 28 年 1 月 23 日（土） 清澄庭園内大正記念館

＜参加者＞ 100 名（\*定員 100 名）

### ＜講演とプログラム＞

- ◎ 「こころの基礎体力」を育む…秋田光彦氏（パドマ幼稚園園長）
- ◎ 感覚を通しての「知」の形成…生田久美子氏（田園調布学園大学副学長）
- ◎ からだを育てる 感覚を磨く—知の身体性—…辻本雅史氏（国立台湾大学教授）
- ◎ 会場一体となったディスカッション（コーディネーター辻本雅史氏）

### ＜当日アンケート結果＞

#### 第二回シンポジウムアンケート集計

Q1 シンポジウムの感想		Q2 興味ある講演		Q3 参加者の年代		Q4 シンポジウムの認知	
大変良い	46%	家庭教育	26%	60 代以上	38%	その他	35%
良い	48%	子育て実践研究	23%	20 代	20%	前川財団 HP	27%
普通	6%	江戸学	18%	50 代	20%	チラシ案内	23%
あまり良くない	0%	徳育	16%	30 代	18%	友人	12%
良くない	0%	地域教育	10%	40 代	4%	幼稚園	4%
		その他	7%	10 代	0%	その他	0%

Q2 興味ある講演（その他）
保育の実情
「気になる子」への対応
生活基盤型と就学型保育
教育学一般
いじめの原因と解決
貧困による教育格差の改善案
現代教育（子育て）への疑問
大人、人材育成者への教育

Q5 今後の講演企画への意見
幼児教育の実践と教育理念、体験・経験
幼稚園・保育園の現状と今後、将来像
幼稚園・小学校の教育者とのディスカッション
家庭教育（特に母親の教育・しつけのあり方）
親の教育、「親とは？」のテーマ
地域と教育を結び付けたテーマ
各地で行われている教育実践
将来の人財育成、「教える技術」の講演

※アンケート集約結果を反映し、次回以降の研修事業の方向性とテーマ再編の策定を行った。

## 3. 体制の整備

平成 27 年 1 月 16 日付をもって公益財団法人への移行認定を受け、平成 27 年度は実質的な事業の初年度と位置づけて教育振興事業の充実と併せ、遵法体制の強化に注力した。特に、内部諸規程の整備とともに、理事会・評議員会の的確な運営方針を策定し、ガバナンスの向上を図った。また必要に応じて職員の外部講習会等への参加を促し、公益法人の法令、会計実務の精確な理解に努めた。

## II. 庶務の概要

### (1) 理事及び監事に関わる事項

平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 6 月 20 日

職 名	常勤・非常勤	氏 名	職 業
理 事 長	常 勤	金澤 岳夫	
理 事	非 常 勤	野口 剛	帝京大学准教授・社会科教育学会幹事
理 事	非 常 勤	塩谷 一樹	公認会計士・税理士
監 事	非 常 勤	杉山 央	弁護士

平成 27 年 6 月 17 日の評議員会において、新任の理事一名 佐野 誠の理事選任の決議が行われた。  
平成 27 年 6 月 29 日の理事会において、金澤 岳夫の代表理事、理事の退任、佐野誠の代表理事の選任が行われ、6 月 29 日付けで東京法務局に代表理事変更の登記がなされた。

平成 27 年 6 月 29 日~平成 28 年 3 月 31 日

職 名	常勤・非常勤	氏 名	職 業
理 事 長	常 勤	佐野 誠	
理 事	非 常 勤	野口 剛	帝京大学准教授・社会科教育学会幹事
理 事	非 常 勤	塩谷 一樹	公認会計士・税理士
監 事	非 常 勤	杉山 央	弁護士

### (2) 評議員に関する事項

平成 27 年 4 月 1 日~平成 28 年 3 月 31 日

職 名	常勤・非常勤	氏 名	職 業
評議員長	非 常 勤	前川 真	株式会社前川製作所専務取締役
評 議 員	非 常 勤	鮫島 元成	公益財団法人講道館指導部長
評 議 員	非 常 勤	森 一隆	税理士

### (3) 選考委員に関する事項

平成 27 年度選考委員

職 名	常勤・非常勤	氏 名	職 業
選考委員長	非 常 勤	辻本 雅史	国立台湾大学教授・京都大学名誉教授
選考委員	非 常 勤	小泉 吉永	法政大学講師・往来物研究家
選考委員	非 常 勤	太田 素子	和光大学現代人間学部教授

### (4) 職員に関する事項

平成 28 年 3 月 31 日現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	期 間
事務局職員	常 勤	藤森 浩	平成 27 年 10 月 1 日入職~平成 28 年 3 月 31 日
事務局職員	常 勤	藤田 裕美	平成 27 年 4 月 1 日~平成 28 年 3 月 31 日

### (5) 諸規程に関する事項

平成 27 年度第 5 回理事会（平成 28 年 3 月 16 日）において下記規程の制定、改定が承認された。

規程の制定・改定	制定・改定日
規程の制定	

助成金取扱規則	(公財 平成 28 年 3 月 16 日制定)
定年後再雇用規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日制定)
マイカー通勤規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日制定)
規程の改定	
理事会運営規則	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
選考委員会規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
事務処理規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
就業規則	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
準職員就業規則	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
給与規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
旅費規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
退職金規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
育児休業規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
介護休業規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
プライバシーポリシー	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)
慶弔見舞金規程	(公財 平成 28 年 3 月 16 日改定)

## (6) 会議等に関する事項

### <理事会>

#### ① 平成 27 年度第 1 回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 5 月 12 日	1. 平成 26 年度事業報告書の件 2. 平成 26 年度決算報告書の件 3. 評議員会開催の件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

#### ② 平成 27 年度第 2 回理事会

決議があったと みなされた日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 6 月 29 日	1. 理事長選任の件	理事全員の同意及 び監事の異議無し

#### ③ 平成 27 年度第 3 回理事会

決議があったと みなされた日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 7 月 13 日	1. 平成 27 年度における助成事業選考委員選任の件	理事全員の同意及 び監事の異議無し

#### ④ 平成 27 年度第 4 回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 27 年 8 月 20 日	1. 平成 27 年度助成の件 2. 選考委員報酬変更の件 3. 評議員会開催の件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認



⑤ 平成27年度第5回理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成28年3月16日	1. 平成28年度事業計画に関する件 2. 平成28年度収支予算書に関する件 3. 内部規程に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

<評議員会>

① 平成27年度第1回評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成27年4月9日	1. 平成26年度みなし決算に関する件 2. 内部規程に関する件 [報告事項] 平成27年度事業計画及び収支予算に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認

② 平成27年度第2回評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成27年6月17日	1. 平成26年度事業報告書の件 2. 平成26年度決算報告書の件 3. 理事選任の件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

③ 平成27年度第3回評議員会

決議があったとみなされた日	議 事 事 項	会議の結果
平成27年8月25日	1. 選考委員報酬変更の件	理事全員の同意及び監事の異議無し

(7) その他重要事項

① 許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡年月日	事 項	履 行 状 況
平成27年6月29日	代表理事変更登記申請	平成27年6月29日 受付
平成28年3月30日	異動届出書 (中央都税事務所)	平成28年3月30日 受付
平成28年3月30日	異動届出書 (江東西税務署)	平成28年3月30日 受付

② 契約に関する事項

顧問契約 河崎健一郎弁護士 期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日  
顧問契約 高木秀輔税理士 期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

③ 寄付金に関する事項

平成27年5月14日 株式会社 前川製作所より¥35,000,000の寄付金を受領した。  
平成28年3月18日 株式会社 前川製作所より¥5,000,000の寄付金を受領した。

④ 行政庁からの連絡事項等

なし

### Ⅲ. 業務の適正さを確保するための体制の整備についての決議の内容の概要

1. -3. の通り。

**(1) 理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制**

監事による監査を受けている。

**(2) 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制**

定款（平成 27 年 1 月 16 日改定・施行）第 40 条の定めに従い、理事会議事録を作成し、事務処理規程（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）第 11 条の定めに従い備置、保存している。

**(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制**

資産運用規程（平成 26 年 5 月 28 日制定・施行）、就業規則（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）、個人情報保護規程（平成 26 年 5 月 28 日制定・施行）に定める管理を行っている。

**(4) 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

監事による監査を受けている。

**(5) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制**

就業規則（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）を設け、当該規則を遵守し運営を行っている。

**(6) 監事とその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項**

当該使用人が設置されていないため、該当なし。

**(7) (6)の使用人の理事からの独立性に関する事項**

当該使用人が設置されていないため、該当なし。

**(8) 理事及び使用人が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制**

会計帳簿及び関係書類の提出を行っている。

**(9) その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

該当なし。

**(10) 理事会設置一般財団法人以外の一般財団法人で理事が 2 人以上ある場合は、業務の決定が適正に行われることを確保する体制**

理事会運営規則（平成 28 年 3 月 16 日改定・施行）を定め、当該規則を遵守し運営を行っている。

#### IV. 附属明細書

##### 事業報告の内容を補足する重要な事項

該当なし

以上